

平成29年度 生涯学習・社会教育関係職員研修講座 各地区会場

## 「東青地区研修」

平成29年7月12日(水) 会場名:青森県総合社会教育センター 受講者数 20名

生涯学習・社会教育関係職員研修講座 各地区会場「東青地区研修」が、7月12日(水)青森県総合社会教育センターにおいて実施されました。

この地区研修は、県内6地区の地域課題の把握に努め、各地区のネットワーク形成及び課題解決につながる実践的な知識・技能の習得と人材育成を目的とした研修を実施することを趣旨としています。

東青地区では、「これからの学校支援活動の在り方」をテーマとし、事業説明と実践発表、さらには連携事例としての出前授業を実体験するという内容で行いました。

《 担当者紹介 》

事業説明①「青森市の学校支援活動について」

青森市教育委員会 社会教育課 乗田 俊 氏

事業説明②「地域で学校を支える仕組みづくり推進事業について」

青森県教育庁 生涯学習課 中村 健 氏

実践発表① 学校支援の実際(1)「輝くシニアの居場所づくり」

浦町地区学校支援コーディネーター 工藤 知久子 氏

実践発表② 学校支援の実際(2)「学校を活用した地域づくり」

北地区学校支援コーディネーター 吉田 秀子 氏

講義及び演習「県立郷土館について知ろう！」

青森県立郷土館 学芸課 福士 道太 氏



### 1. 事業説明① 「青森市の学校支援活動について」 乗田 俊 氏

「学校・家庭・地域が連携して、地域ぐるみで子どもを育てる体制を整える。」という学校支援地域本部事業の目的に即し、学校支援活動の内容、学校支援コーディネーターや学校支援ボランティアと学校との関わり方、**連携・協働の関係性**、青森市内の現状を説明していただきました。その上で**これまでの成果・効果**についてまとめ、伝えていただきました。



### 2. 事業説明① 「地域で学校を支える仕組みづくり推進事業について」 中村 健 氏



これからの学校支援活動について、「学校支援活動」から「地域学校協働活動」へ移行し、これまでとの違いや今後求められる「**目標を共有すること**」等について御説明いただきました。「学校支援地域本部」から「地域学校協働本部」へ発展する目指すべきイメージや本県における現状、今別町の伝統芸能『荒馬』を事例とした説明も加えていただきました。

### 3. 実践発表① 学校支援の実際(1)「輝くシニアの居場所づくり」 工藤 知久子 氏

青森市浦町地区の小学校・中学校のボランティア募集の方法から御説明いただきました。そして、学校から学校支援コーディネーターへの依頼とそこからどのような流れで実際の活動へつながるのかをお話しいただきました。特徴的なこととして、ボランティア活動の可能な人材確保のため、地域内における「就業状態等基本集計（国税調査資料）」と「母親就業率」をデータとして分析し、活動可能な人員を割り出した上でコーディネートしていることです。シニア世代が『居場所』としてボランティア活動に参画できる体制づくりを目指しているという発表でした。



### 4. 実践発表① 学校支援の実際(2)「学校を活用した地域づくり」 吉田 秀子 氏

青森市北地区の取組としては、学校支援コーディネーターは、学校からの思いと保護者や地域の力を「マッチングさせる調整役」と捉えているというお話から始まりました。ポイントは、学校と地域をつなぐ前に、自分が学校とつながることを意識しているとのこと。活動の実際を紹介していただき、まとめの中では、「教育」⇒「今日行く」、「教養」⇒「今日用」として、日常化しながら“喜び”や“生きがい”につなげていけるようにしたいとの思いを発表していただきました。



### 5. 講義・演習 「県立郷土館について知ろう！」 福士 道太 氏

青森県立郷土館の概要についてお話しいただきました。総合博物館としての使命や展示物の特徴、さらには建物そのものが『登録有形文化財』であることなど、一般に知られていない情報もふんだんに入れて御説明をいただきました。

演習は、出前授業等でも実際に行っている「化石のレプリカづくり」を体験しました。手順を丁寧に伝えていただき、「型取り」から「色づけ」・「仕上げ」までの一連の作業を楽しみながら本物そっくりのレプリカを完成させました。

小学校の『移動博物館』展示の縮小版も行い、受講者が古い道具の使用法を質問するなど、県立郷土館について非常に興味を持って持っていただいた内容となりました。



### 6. 受講者の感想

- ・学校支援コーディネーターの役割をきちんと学べたこと。学校・生徒に対して手伝うだけでなく、手伝うボランティアにとってもやりがいを持ってもらうこと。生徒にとっても、ボランティアにとっても、プラスになっていくと感じた。その橋渡しの存在のコーディネーターは大変だと思いますが、必要な存在だと思います。
- ・内容が非常によかった。文科省としての方向性など、今後の活動に生かしていけると思う。事例発表も具体的でとても参考になった。午後も小学生になったつもりで楽しめた。
- ・県立郷土館がこんなに素晴らしいところなんて！タイムスリップした不思議な気持ちです。日常では体感できない、数字では表せない過去と向き合え感動いたしました。子ども教室の子どもたちに体験させたいです。